

◆台東区基本構想 検証シート

産業

基本理念	下町文化の継承と発展
将来像	I にぎわいと活力のまち
基本目標	1 産業の活性化
	台東区の産業は、業種の集積の多様さが特徴です。また、国際化の影響、就業者の高年齢化などが進展しています。社会の動向は、産業構造の変化、就業形態の多様化などが進んでおり、そうした変化に応じた対策が求められています。こうした情勢のもと、台東区は、個々の会社や商店などの力を活かして、地域経済の活性化を図り、世代を超えた就業者の働く意欲を高めて、活力に満ちた元気なまちであり続けることをめざします。 この基本目標を実現するために、企業の経営の革新を支援していきます。人材の育成や、地場産業をはじめとする各種の産業、商店街の活性化を図ります。そして、文化資源を活用するなど、文化の力を産業に活かしていきます。

小 柱		長期総合計画【平成17年度～26年度】検証結果 抜粋 (10年間の主な成果・課題)
施策名称		
(1) 中小企業の経営革新支援		
経営力の強化支援 【産業振興課】	<ul style="list-style-type: none"> 平成18年度以降の夏季特別融資、平成20年度の世界同時不況に対応した緊急経営安定化融資や平成23年度の東日本大震災に関連した融資など、社会経済状況や市場ニーズに合せた融資斡旋制度を実施し、中小企業の支援を行い、経営の安定化に寄与している。 産学公連携による中小企業のネットワークづくりに関しては、利用者からの問合せは多いものの、利用実績には結び付いていないため、より使いやすい制度となるよう取り組む必要がある。 	
創業・起業支援 【産業振興課】	<ul style="list-style-type: none"> 平成16年度に開設したデザイナーズビレッジの卒業生のうち、約半数が区内に留まり活躍しており、自立する企業者の数も順調に増えている。 平成21年度に開設した浅草ものづくり工房は、自立企業数も順調であり、現入居者が独自の展示会を開催するなど、自立に向け積極的に活動を行っている。 	
商品開発力支援 【産業振興課】	<ul style="list-style-type: none"> ファッショングッズフェアは、ザッカ展の来場者数、デザイン画コンペ応募数ともに堅調に推移している。 新製品や新技術に対する開発支援により、売上増となった企業も多く、意欲的な企業を後押しすることで区内産業の活性化につながっている。 芸術文化・産業連携事業は、大学から様々なアイデアが出されているものの、事業者や消費者のニーズとの調整が難しい等の理由により製品化には至っておらず、課題が残る。 	
販路・市場開拓支援 【産業振興課】	<ul style="list-style-type: none"> 新市場開拓助成を行った企業のうち売上増となった企業も多く、新たな販売市場開拓を側面から支援している。 企業間の交流を着実に推進するとともに、ものづくりのまちPR助成を活用し、「モノマチ」などが実施されており、事業活動の意欲高揚と新たなネットワーク構築に寄与している。 より効果的に市場開拓を行えるよう、ホームページ作成支援について、時代のニーズに応じた見直しを行う必要がある。 	
人づくり支援 【産業振興課】	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業の人づくりを進めるため、経営研修や技能研修などに対する支援を行っており、利用者の満足度も高くなっている。 若手経営者サポートセミナーの満足度も高く、経営者の経営能力向上に寄与している 専門相談員による相談に加え、合同面接会やまちかど面接会など様々な手法で雇用・就業支援を実施している。今後、より多くの方が就業できるよう、取組んでいく必要がある。 	
事業転換の支援 【産業振興課】	<ul style="list-style-type: none"> 事業転換に関する融資あっせん制度を設け、時代の変化に合わせ、事業を再構築する企業を支援している。既存の商工相談に加えて、平成25年度から専門コーディネーターによる相談も実施し、体制の充実を図っている。 	

小 柱		施策評価【平成27年度・28年度】結果 抜粋 (2年間の主な成果・課題)
施策名称		
(1) 中小企業の経営革新支援		
経営基盤の強化支援 【産業振興課】	<p>商工相談と専門コーディネーターによる企業訪問については、事業者から好評を得ており、実績も行政計画事業の目標を上回り順調に伸びている。27年4月に開始したビジネス支援ネットワークなどの様々な支援を連携させることで総合的かつワンストップな相談体制を構築し、区内中小企業に対してきめ細やかな対応を行っている。</p> <p>中小企業融資では、27年度は開業支援資金の金利及び信用保証料本人負担ゼロの実現、28年度はワークライフバランス資金を創設する等、区内中小企業の経営安定と改善向上に取り組んでいる。</p>	
創業・起業の促進 【産業振興課】	<p>台東デザイナーズビレッジや浅草ものづくり工房の卒業生の区内定着企業数については、目標に向けて順調に増加している。また、したまちTAITO創業塾受講生の区内起業数についても増加しており、創業・起業者の区内定着が進んでいる。</p> <p>創業・起業に関する商工相談や開業支援資金融資実績も伸び、創業・起業希望者も増えている。さらに、モノマチやエーラウンドの地域イベントなどの開催により、デザイナー・クリエイターと地場産業メーカーとの結びつきも生まれ、デザイナー・クリエイターの区内定着が「ものづくりのまち」の推進力になっている。</p>	
企業力の向上支援 【産業振興課】	<p>新製品等の開発や新市場開拓の助成支援を行った企業のうち、売上増になった企業の比率は、順調に推移していることから、企業の新しい取り組みに対する意欲の高揚や、区内産業の活性化に寄与している。</p> <p>自社ブランド販売支援では、運営をオンラインショッピングサイトの専門業者に委託し、参加企業を販路開拓や新商品発表等のPRの面から支援しており、その結果、参加企業は毎年増加している。</p> <p>また、商品プロモーション支援件数は、行政計画事業の目標を上回る支援件数となっており、「多様な産業の集積」という台東区の特徴を活かした高付加価値の魅力ある商品づくりが進められている。</p>	
事業者間ネットワークの促進 【産業振興課】	<p>業種を超えた事業者間の連携を深める取り組みとしては、「ビジネス交流フェスタ」の開催などの異業種間交流支援や、多様な地域資源を活用して、地域産業の活性化を図るTASKプロジェクトにおいて、実際に商談につながるケースがあった。また、若手経営者サポートセミナーなどの人材育成事業により自主的なグループ交流が進むなど、業種を超えた連携基盤創出の一助となっている。</p> <p>一方で、異業種交流イベントに参加した企業のうち「受注機会の拡大が図られた」と回答した企業の割合は、平成28年度実績が減少しており、異業種交流イベントに参加する企業の増加や、受注機会の拡大を促進する仕掛けや工夫が必要である。</p>	
次代を支える担い手づくり 【産業振興課】	<p>中小企業の人づくり支援助成件数は、行政計画事業の目標に達していないものがあるが、若手経営者サポートセミナー等の開催回数は、行政計画どおり進捗しており、次代を支える担い手を育成し、区内中小企業の経営安定と事業継続・継承の一助となっている。</p> <p>雇用・就業面では、ハローワーク等の関係機関と連携し、効果的な支援事業を実施している。</p> <p>区内中小企業の職場環境等改善の取り組みについては、支援企業数が行政計画事業の目標を下回っており、企業の意欲向上につながるようなPRに努めるなど、更なる工夫を行う必要がある。</p>	

◆台東区基本構想 検証シート

産業

基本理念	下町文化の継承と発展
将来像	I にぎわいと活力のまち
基本目標	1 産業の活性化
	台東区の産業は、業種の集積の多様さが特徴です。また、国際化の影響、就業者の高年齢化などが進展しています。社会の動向は、産業構造の変化、就業形態の多様化などが進んでおり、そうした変化に応じた対策が求められています。こうした情勢のもと、台東区は、個々の会社や商店などの力を活かして、地域経済の活性化を図り、世代を超えた就業者の働く意欲を高めて、活力に満ちた元気なまちであり続けることをめざします。この基本目標を実現するために、企業の経営の革新を支援していきます。人材の育成や、地場産業をはじめとする各種の産業、商店街の活性化を図ります。そして、文化資源を活用するなど、文化の力を産業に活かしていきます。

(2) 地域経済の活性化	
商店街の意欲を活かした振興 【産業振興課】	<ul style="list-style-type: none"> 個々の商店街の特性や意欲を活かした振興を進めるため、商店街が行うイベントや、商店街利用者へのサービス向上につながる事業への支援を行っている。 平成22年度からは、環境にも配慮したLEDなどの省電力型の街路灯改修に対する助成を行うなど、時代に即した支援を行っている。 旧福井中学校跡地に、民間活力を生かし、地域のにぎわい創出と産業の振興を目的とした施設を平成24年度に開設した。
伝統産業の振興 【産業振興課】	<ul style="list-style-type: none"> 台東区の伝統工芸の保存や販路拡大を目的として、江戸下町伝統工芸館を運営し、職人による実演や特別展を行っている。 技能者の顕彰制度を通じて、その技能をたたえ、本区のものづくりの周知を行っている一方で、後継者は依然として不足している。
都市基盤整備との連携・地域間交流 【産業振興課】	平成17年度のつくばエクスプレス開業を契機として、沿線4区が地域間の連携や地域経済の活性化のため開始したTASKプロジェクトは、平成21年度には足立区も参加し、事業を展開している。TASKプロジェクト参加企業の中には対象の製品をもとに成長を遂げた企業もあるなど、着実な成果をあげている。

* 施策名称【】内は施策の主管課(平成25年度検証時)

(2) 地域経済の活性化	
商店街の意欲を活かした振興 【産業振興課】	イベント・サービス向上支援は、各商店街が積極的にイベントを実施する風潮を高め、また、HP新規作成やスマートフォン対応等、商店街のPRや情報発信を促進し、平成28年度までの支援実績は行政計画事業の目標を上回っている。一方で、商店街の振興に係る事業を活用した商店会の割合は、平成26年度から減少しており、近隣型商店街においては地域コミュニティの核となる商店街として、広域型商店街においてはさらに増加が想定される外国人観光客などに対応した商店街として、その特性に応じた活性化が図られるよう支援制度の更なる活用を推進していく必要がある。
伝統産業の振興 【産業振興課】	<ul style="list-style-type: none"> 様々な取り組みを通じて、伝統工芸に触れる機会を提供し、優秀な技能者の顕彰や作品展によりPRするなど、伝統工芸産業の魅力が区内外に発信しているものの、施策の指標の江戸下町伝統工芸館入館者数は、平成25年度から減少傾向にある。このため、同館の展示方法の見直し等を含めたりリニューアルを平成30年度に行うべく検討を進めている。 日本有数の伝統工芸品の集積地である台東区の強みを活かし、その魅力の紹介、伝承について、さらに発信していくためには、特に若い世代を中心とした意識の高揚や普及啓発を行う必要がある。
ものづくりのまち推進 【産業振興課】	ものづくりのまちPR支援では、平成28年度より助成制度の改定を行い、ものづくりに携わる企業の区内誘致・定着を推進するための充実を図っている。また、異業種間の交流により新たなものづくりのネットワークが生まれていることから、「ものづくりのまち」としての魅力が区内外に広く知られる機会づくりの一助となっている。ファッションザッカフェアでは、デザイン画コンペティションや合同展示会出展支援、大手百貨店との販路開拓支援等、様々な事業を実施しているが、デザイン画コンペティションの応募数は減少しており、作品募集に係る周知方法を見直す必要がある。

* 施策名称【】内は施策の主管課(平成29年度現在)

<参考指標> *「目標(36年度末)」は、長期総合計画(平成27年3月)で設定している達成目標

施策の指標			
指標名	16年度	28年度	目標 (36年度末)
商工相談件数	年425件	年611件	年700件
企業訪問件数	年865件 (25年度)	年1,522件	年1,000件
台東デザイナーズビレッジ卒業生の区内定着企業数	7社 (18年度)	累計35社	累計60社
浅草ものづくり工房卒業生の区内定着企業数	6社 (24年度)	累計14社	累計25社
したまちTAITO創業塾受講生の区内起業数	累計5社 (26年度)	累計16社	累計50社
新製品・新技術開発助成を行った企業のうち売上増となった企業の比率	50%	80% (27年度)	60%
新市場開拓助成を行った企業のうち売上増となった企業の比率	50%	100% (27年度)	60%

施策の指標			
指標名	16年度	28年度	目標 (36年度末)
異業種交流イベントに参加した企業のうち「受注機会の拡大が図られた」と回答した企業の割合	40.4% (26年度)	37.5%	増加
中小企業の人づくり支援助成件数 経営研修 技術技能研修 自主研修	経営研修 5件 技術技能研修 3件 自主研修 14件	累計30件 累計48件 累計206件	累計59件 累計71件 累計374件
雇用・就業相談件数	年41件 (17年度)	年130件	年150件
商店街の振興に係る事業を活用した商店会の割合	79.4%	83.3%	90%
江戸下町伝統工芸館入館者数	年116,589人	年103,781人	年14万人
区内ものづくり企業PR件数	48社	359社	500社
デザイン画コンペ応募数	年3,332点 (17年度)	年2,370点	年3,100点

◆台東区基本構想 検証シート

産業

基本理念	下町文化の継承と発展
将来像	I にぎわいと活力のまち
基本目標	1 産業の活性化
	台東区の産業は、業種の集積の多様さが特徴です。また、国際化の影響、就業者の高年齢化などが進展しています。社会の動向は、産業構造の変化、就業形態の多様化などが進んでおり、そうした変化に応じた対策が求められています。こうした情勢のもと、台東区は、個々の会社や商店などの力を活かして、地域経済の活性化を図り、世代を超えた就業者の働く意欲を高めて、活力に満ちた元気なまちであり続けることをめざします。 この基本目標を実現するために、企業の経営の革新を支援していきます。人材の育成や、地場産業をはじめとする各種の産業、商店街の活性化を図ります。そして、文化資源を活用するなど、文化の力を産業に活かしていきます。

区の総括意見	<p>企業の経営革新を支援するため、中小企業への融資などの支援体制を強化するとともに、専門コーディネーターによる巡回訪問の実施や、複雑・高度化する経営課題に対して、専門知識を有する関係機関と連携したビジネス支援ネットワークを構築し、相談支援体制の充実を図った。</p> <p>創業支援施設である台東デザイナーズビレッジや浅草ものづくり工房において、企業の自立・成長を支援するなど、区内における起業・創業及び定着を促進し、施設卒業生の区内定着企業数は着実に増加している。</p> <p>新たな製品・技術の開発や販路開拓などの助成金をはじめとする、企業力の向上につながる支援を行うほか、ビジネス交流フェスタやTA SKプロジェクトなど、様々な事業者間のネットワークづくりを促進した。さらに、区の産業の魅力をPRし、区内中小企業が国内外にビジネスチャンスを広げる機会とするため、「産業フェア」を開催した。</p> <p>そのほか、若手経営者サポートセミナー等による次代の産業を支える人材の育成支援、多様な就業・雇用形態に対応した就労支援を行った。また、中小企業が時代の変化に対応していくために、事業転換を計画、実施する際の支援を行った。</p> <p>商店街が行うイベントやサービス向上事業に対する支援など、個々の商店街の特性や意欲を活かした振興策を進め、魅力ある商店街の形成に取り組むほか、歴史的なものづくり文化である多種多様な伝統工芸の魅力や技術を、「江戸下町伝統工芸館」での取り組みや、優秀な技能者の顕彰や作品展などにより広く区内外にPRするなど、その良さを活かした振興を行い、地域経済の活性化を図った。</p> <p>ものづくりに関する取り組みについては、ファッション雑貨の産地として区が持つものづくりの特性にクリエイターという新たな要素が加わり交わることで、地元企業有志による地域活性化イベント「モノマチ」や「エーラウンド」が開催されるなど、新しい「ものづくりのまち」が形成されつつあることから、新たな施策として位置づけ、この動きがより活発化し、継続するよう支援に取り組んだ。</p> <p>これらの取り組みにより、『個々の会社や商店などの力を活かして、地域経済の活性化を図り、世代を超えた就業者の働く意欲を高めて、活力に満ちた元気なまちであり続けること』をめざす基本目標の実現に向けて、着実に進んでいる。</p> <p>課題としては、企業が抱える様々な課題や問題に適切に対応するほか、新たな製品やサービス、ビジネス開発などの新たな取り組みを促進するため、異業種の事業者間の連携、若い事業者や既存事業者の連携、東京藝術大学等との産学連携など、多様な主体の連携・交流を一層推進する必要がある。</p> <p>多くの来街者が訪れる広域・観光型の商店街は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向け、一層の外国人観光客などの増加が見込まれており、来街者の増加・多様化への対応が求められる。また、区民の地域生活を支える近隣型の商店街は、経営者の高齢化と後継者不足に加え、集客の核となる店舗が少ない等、商店街の魅力・集客力が低下しており、空き店舗の利活用が進みにくくなっているなどの課題がある。</p> <p>江戸・東京という都市のもと、台東区で育まれてきた伝統的な技術、伝統工芸の魅力や価値について、さらに発信していくため、情報発信力を強化し、販路拡大につなげることで、伝統工芸産業のさらなる活性化を図る必要がある。また、需要構造の変化や職人の高齢化により、伝統的技術・技法の継承や後継者の確保についても、依然として課題である。</p> <p>「ものづくりのまち」の魅力をさらに高めるため、その魅力を区内外に広くPRし、ものづくりに携わる若手デザイナー・クリエイターや新たな活力をもたらす企業の区内誘致や定着をより一層促進する必要がある。</p>
--------	---

学識経験者からの意見	<p>産業の活性化のためには、経営基盤の強化支援や企業力の向上支援などの基盤的施策と、創業・起業の促進やものづくりのまち推進などの促進的施策を両輪とした展開が必要となるが、将来の発展を見据えた施策として促進的施策の強化が必要となるであろう。</p> <p>「事業者間ネットワークの促進」や「次代を支える担い手づくり」という施策は基本目標の達成に極めて重要であると考えられるが、情報社会の深化という環境変化に対応した事業の仕組みになっていないために、量・質的側面でその効果は予想を下回っているのではないかと懸念される。</p> <p>台東区にとって重要で誇るべき資源でもある伝統産業の振興施策が十分ではないと考える。伝統を維持するだけでなく、新しい産業として創生するという視点が必要ではないか。若い人材の参入や技術の伝承を促進するような施策が求められる。その拠点としての江戸下町伝統工芸館のリニューアルに際して、ただ綺麗にするのではなく、新しい機能をどのように持たせるのかが重要である。</p> <p>グローバル経済化の進展、情報社会の深化といった大きな潮流の中で、それぞれの施策を位置づけ、より効果的な施策の展開という課題がより大きくなってきている。</p> <p>全国的には農・工・商連携の重要性が指摘されているが、台東区においては観・工・商連携の視点が重要であり、個別施策だけでなく、台東区の産業を統合するような施策の方向も望まれる。例えば、廃校となった小学校の跡地利用に際して、台東区の産業の象徴となるような再開発も検討してほしい。</p>
------------	---